

I 実践

1 本校の人権教育の目標

- 人権尊重の精神を養い、民主的な人間関係を育成する。  
 小 学 部：誰とでも仲よくする生活態度を育成する。  
 中学部・高等部：誰に対しても公正公平に振る舞う生活態度を育成する。

2 実践及び成果

(1) 児童・生徒への取り組み

ア 小学部での取り組み

まず教師との信頼関係を築き、学校生活に慣れ、学級や周りの友達と関わる体験を広げていくことをねらいとしている。教科・領域を合わせた日常生活の指導や生活単元学習を中心として、あいさつや他者への意識、思いやりの心を育てるようにしている。

校内では、朝のあいさつについて教師が児童に働きかけることで、児童と教師、児童同士の間であいさつをとおして他者を意識する態度を育ててきた。対外的なものでは、小学校との学校間交流、居住地校交流など、他の学校の同学年の友達と交流する機会を設けてきた。特に、油縄子小学校との交流では、自己紹介やゲームを行うことで、相手の話をよく聞き、相手の理解を深めて、お互いの関係をより深めることができた。本校の児童にとっては、他者を知る経験を広め、社会性を高め、好ましい人間関係を育てる活動ができた。その他、サークルボランティア人形劇など児童の興味関心のあるものを見ることで生活体験の幅を広げることができた。

イ 中学部での取り組み

「なかよく・楽しく・協力」をスローガンに、学習活動全般においてよりよい他者との関わりや友達同士での協力ができるように支援している。今年度は、本校の近くにある油縄子小学校・多賀中学校・多賀高校・交番などの公共施設やいろいろなお店に、生徒たちがあいさつや清掃活動に行ったり季節の花を届けたりする活動を行ってきた。「授業参観に来てください」と声をかけ、実際に授業参観に来てもらうことで、お互いに交流を深めることができた。また、地域の達人として授業にも参加してもらい、いろいろな技を教えてもらうこともでき、生徒は楽しく交流し、積極的に関わろうとするなど意欲的に活動していた。

さらに、作業学習で作った製品をバザーで販売する機会も設定した。自分達の製品を買ってもらうことで、買ってくれた人達に感謝する心やより良い製品を作っていこうする意欲付けとなった。

ウ 高等部での取り組み

卒業後の進路や余暇活動など、よりよい社会的自立を目指し、作業学習を中心に、働くことの大切さや、人と触れ合うことの尊さについて、学校生活全体を通して学んでいる。

よかっぺ祭りへの出店は、自分達で作った作業製品の販売を通して地域の人たちと触れ合う良い機会である。自分達の製品を買ってもらうことで、買ってくれた人達に感謝するとともに、より良い製品作りへの意欲付けともなった。

集会委員会を中心として生徒が一生懸命練習を重ねた特別養護老人ホーム萬春園との交流会は、今年度も下の表のとおり学習を計画し実施した。高齢者に喜んでもらえたことが大きな自信になった。本番では、「明日があるさ」「365歩のマーチ」の曲がかかると利用者の隣に行って一緒に歌ったり、鳴子をお年寄りに渡し「よさこい」に合わせて一緒に踊ったりするなど、積極的に関わろうとする姿が見られ、高齢者への理解が深まり相互に助け合おうとする心情が育ってきている。

【萬春園との交流会までの学習計画】

| 次   | 活 動 内 容   | 活動形態・場所     |
|-----|---|-------------|
| 1   | 導入  | 被服室に学級毎に集合  |
| 2   | 進行の練習やプログラム作り<br>進行：集会委員会<br>プログラム作り：掲示委員会<br>ごみ箱作り：給食委員会 | 各委員会の教室     |
| 3   | 交流会の練習と確認   | 体育館         |
| 4・5 | 萬春園との交流会  | 萬春園 2階のフロアー |
| 6   | 萬春園に手紙を書こう  | 各教室         |

【萬春園との交流会の当日の流れ】

| 時刻    | 活動など  | 主な留意点   |
|-------|---|---|
| 10:20 | クラスで交流会の準備  | ・トイレを済ませ、持ち物の確認   |
| 10:25 | 校門の前に集合・出発  | ・暖かい服装でクラス毎に集合  |
| 10:35 | 萬春園2階のフロアー到着・準備   | ・車椅子の生徒と教師はエレベーターを利用する。<br>・速やかに準備をする。                                |
| 10:40 | <萬春園との交流会><br>・はじめの言葉<br>・「明日があるさ」<br>・よさこい<br>・「365歩のマーチ」<br>・プレゼント贈呈<br>・インタビュー | ・クラス毎に並んで歌う。<br>・〇さんが、「かまえ」の合図をする。<br>・おじいさん、おばあさんに鳴子を渡し、一緒によさこいを楽しむ。 |
| 11:15 | ・終わりの言葉   |   |
| 11:20 | 片付け・萬春園出発   | ・〇Tがフロアの最終確認をする。<br>・クラス毎に帰校する。                                       |
| 11:30 | 学校着   | ・手洗い、うがいをする。  |

(2) 学校・教職員の取り組み

ア 学校公開

今年度の学校グランドデザインのスローガン「わたしたちのまちの学校がです」として、市立特別支援学校の良さを生かし良さを伸ばす取り組みと、「わたしたちのまちが学校です」として、日立市内の教育資源を最大限に活用する取り組みの中で外部の方々とのコミュニケーションと交流により、相互理解を図ってきた。

イ 人権教育研修会

2月8日(金)に、茨城大学非常勤講師鈴木宏治先生を講師に迎え講演(演題未定)をしていただく予定である。

ウ その他

学期ごとに1回実施する保護者との教育相談や夏休みの家庭訪問の他に、必要に応じて家庭と連絡を取り合い、児童・生徒の実態や進路希望などについての共通理解を図り、個に応じた指導に努めた。また、医療機関や母子療育ホーム、児童相談所や福祉課などの児童・生徒の関係する諸機関とも連携を取りながら指導・支援にあたってきた。

さらに、PTAや父親の会主催による夏祭りや焼きそば会、多賀高校スモールハンズ部との交流会、県警音楽隊のコンサートや稲村なおこコンサート、ALTとの交流など、様々な行事に参加することで経験の幅を広げることができた。

II 今後の課題

- 1 各学部での交流及び共同学習は、多くの人々と触れ合うとてもよい機会であった。これからも、交流及び共同学習の反省を生かして、児童・生徒の実態や交流の形態に応じた指導・支援のあり方を考えていきたい。
- 2 今後も、家庭や地域と密に連絡を取り合い、協力・連携しながら各種行事やイベントに参加することで、地域との交流をさらに深めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

コーナーの名前を「ふれあいひろば」として、職員室前に設置した。

いろいろな行事の写真を掲示することで、昼休みに熱心に見ている児童生徒が多く見受けられた。

